

チシマネコノメソウ *Chrysosplenium kamschaticum* Fisch. ex Ser.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 13。愛知県では生育地が少なく、個体数も 1 カ所以外は少ない。

【形態】

小型の多年生草本。茎は高さ 5~10cm になり、基部から地上性の走出枝を出す。走出枝は花後伸長して長さ 10~20cm になり、1~2 回枝を分け、先端にロゼット状の小株をつける。根出葉は花時まで残り、短い柄があり、葉身は長さ 5~10mm、幅 6~15mm、基部は広くさび形で葉柄に続き、上半部は半円形で鈍鋸歯がある。茎葉はないか、あっても 1 対である。花期は 4 月、花序部は 2~3 回分枝しする。花は直径 3~4mm で黄緑色、愛知県のものについては雄ずいの数や葯の色は未確認である。さく果は斜開する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 26369, 2012-5-5)。  
西：5 稲武 (村松正雄 25242, 2010-7-3)。

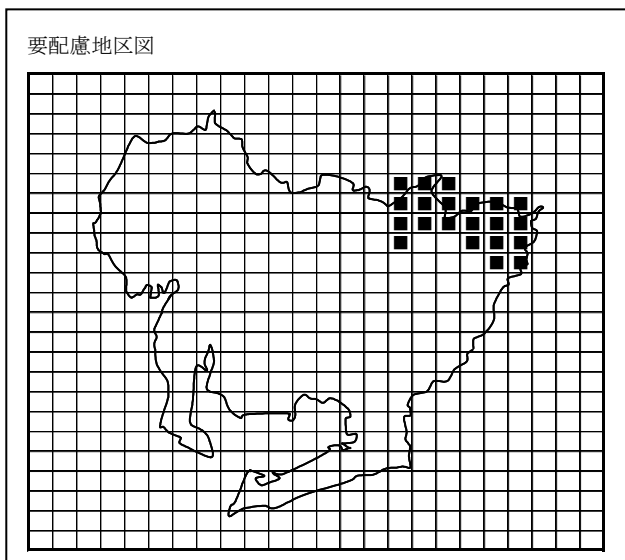
【国内の分布】

北海道、本州 (近畿地方以北、日本海側に多い)。

【世界の分布】

カムチャッカ半島、千島列島、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内に生育する。地上に生育することも岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

稲武では 2 カ所で確認されており、そのうち 1 カ所では沢に沿って点在していて、個体数も比較的多い。しかし他の 1 カ所では小群落が 2 つ、豊根でも小群落が 1 つ確認されているだけである。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林を保全することが必要である。

【特記事項】

花後長い匍匐枝を出すことが特徴である。愛知県での生育は、村松正雄氏により確認された。

【関連文献】

保草Ⅱ p.141, 平草Ⅱ p.158-159, 平新版 2 p.202.